



2022年5月 日
桜井谷小学校
4年図工通信 第2号
発行者：

グラデーションってなに？

今回のテーマは「超イケてる蝶」。作品作りに取り掛かる前に、子どもたちに「グラデーションって知ってる？」と聞いてみると、大半の子が「知ってる！！」と元氣よく反応してくれました。「じゃあどういう意味？」と聞くとしーん……（笑）そんな中、何人かが頑張っ

- ◆色の境目がぼんやりしている
- ◆だんだん色が変わっていく感じ
- ◆ぼかしながら塗っていく感じ
- ◆濃い色から薄い色に変わっていくこと

なるほど～。よく分かっていますね～。説明を聞きながら、周りの子どもたちもうんうんと頷いていました。

今回の作品では、蝶を作る前に蝶が飛ぶための空を大きな画用紙に絵の具でグラデーションして描くのです。子どもたちがキーワードを出してくれたので、出てきた言葉を元にグラデーションの表現の仕方をみんなで確認することができました。「濃さはどうやって変えるの？」と聞くと、「水の量を変えていく」とばっちり！水の量が少ないと濃い色に、少ないと薄い色になっていくことをこれまでの学習や体験から知識として知っている子が多かったです。

グラデーションのイメージがわいたところで、いざ空を描いていきます。夕焼け（朱色）か青空（青色）のどちらかを選んで色をつけていきます。習字で「一」を書く時のように、筆の穂先から根本まで全てを画用紙につけて筆を横に引きながら色をつけます。

取り組む様子を見ていると、子どもたちの「水たっぷり」の感覚と、こちらが思っている「水たっぷり」の感覚とは違うんだなぁと改めて気付かされました。水の量によって、色の濃さも筆の動きも変わることには分かっているのに、適度な水の量にするのがどうやら難しいようです。パレットも筆も乾いているのに、続けて何度も色をつけようとする度に「水を含ませて～！！」と隣で唱えていました。イメージするものを自分でつくりあげる為に、どうしたら良いのかを考えながら活動するって大切ななぁと感じました。

水の量を増やしていくタイミングを調整しながら、それぞれのグラデーションが完成！濃いエリアが広い作品、薄いエリアが広い作品、それぞれの空ができあがりました。水たっぷりで色をつけたので、画用紙はふにゃふにゃ。乾燥棚でしっかり乾かします。

できあがった空に飛ばす蝶のテーマは「実在しない」「オリジナル」の蝶です。羽の形、色、模様を自分の好きなデザインでつくっていきます。



クレパスと絵の具を使って、それぞれ思い思いの蝶を仕上げてほしいです。

